
Pray!

氷華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Pray!

【著者名】

N49730

【作者名】

氷華

【あらすじ】

図書室の花子と、それを巡る物語。

～図書室の花子

同じ毎日を繰り返すことに疲れていた。

あたしは、ただそう思つていただけだった……

「お願いしまーす！」

「お願いしまーす！」

太陽の照りつけるグランドから、そんな声が聞こえてくる。でも、あたしにとつてそんなものはどうでも良かつた。

図書室の隅の、一番涼しい席に座つて、ただ本を読みふけるロングヘアに眼鏡の女子。

それがあたし……通称『図書室の花子』。

この学校内であたしについて語る上で、あたしの本名は必要ない。誰もあたしのフルネームを覚えてなんかいないし、名前を呼ぶ必要もほとんどないから。

誰も知らないだろうが、一年前のあたしは読書なんて大嫌いだつた。活字離れと言われる若者の代表例のような女子だつた。それがどうして、図書室の花子などと呼ばれるよつになつたのか。あたしにだつてわからない。

でも、ただ一つ分かるのは、人気者でいるのも、ひつして空氣になるのにも、疲れてしまったということだけだ。

「また読み切つちゃつた……」

もういい加減にして、帰ろうかと荷物をまとめた。

一年前と比べ、明らかに白くなつた肌。柔らかくなつた筋肉。太つ

たわけではないが、やはり以前より体つきは丸くなつた。眼鏡も、最近になつて使い始めた。

「帰るかな」

席を立ち、ひんやりとした図書室を後にする。
ドアを開けると、その蒸し暑さに嫌気を感じる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4973o/>

Pray!

2010年10月25日00時43分発行